

七十六人、平成十七年千九百七十四人で、約5%減少しています。

高齢者（六十五歳以上）人口は、平成七年四百六十六人（二一・五%）、平成十二年四百八十九人（二三・五%）、平成一七年五百三十八人（二七・三%）と高齢化が進んでいます。

十五歳以下人口は、平成七年三百三十八人（一六・三%）、平成十二年二百八十一人（一三・五%）、平成十七年二百一十三人（一一・三%）と少子化も進んでいます。

このように、少子・高齢化が進む中で、高齢者で一人暮らしの世帯が増え、現在六十五歳以上で八十三世帯、内七十五歳以上は五十四世帯です。村では高齢者の一人暮らしの方々を中心に、生活に不便を感じている方の手伝いをするホームヘルプ事業を実施しており、現在十四名の方が利用されています。

また、デイサービス事業は日常生活で人と交流する機会

の少ない高齢者の方々を中心に、ふれ愛センターに集まりゲームや散歩、入浴などのサービスを受ける事業で、現在二十五名の方が利用されています。

ホームヘルプ事業やデイサービス事業は介護保険が認定された方々が利用される事業ですが、認定されていない方も利用できる「生きたいデイサービス」も実施されており気軽に運動や趣味を楽しんでいます。

次に、高齢者が自由に交流できる施設として、平成十二年度に生きたい交流センターを開設し、カラオケサークルや囲碁など趣味の仲間の方々に利用されています。

その他に、高齢者の方の特技を生かした「生き生き事業」を実施しており、先日文化祭で発表された切絵の講座などがあります。

健康維持の事業としては、虻田町と合同で「中島ウォーク」や「史跡めぐりウォーク」などを実施しています。高齢

者も参加しています。

今後とも、生きたい交流センターを多くの方に利用いただけるよう趣味と特技を生かした講座を実施するとともに高齢者に合った軽スポーツ教室なども開催する予定です。

中学生の皆さんにも高齢者の皆さんとの交流を課題とした総合的な学習などで、気軽に施設を利用いただくことを期待します。

【和泉まりも議員】

【質問】洞爺村には、シソ、アスパラなどたくさんさんの農業特産物があるが、洞爺湖町になつても特産物として全国にアピールし、農業を活性化させる考えはありますか。

洞爺村の主な産業は農業ですが、農業をさらに活性化させるための具体的な政策を教えてください。

【答】洞爺村には、シソ、アスパラをはじめとして、全道全国に誇れるセルリー、長いも、ニンジンなどの農業特産物、それらを加工したシソジュー

スや香り漬けなどの加工品があり、テレビや新聞などのマスコミやインターネットを利用するなど、機会あるごとに全道・全国にPRをしてきています。

町村合併により、洞爺湖町になりましたが、農業が重要な産業であることには変わりありません。合併後は、現虻田町の漁業と観光、そして現洞爺村の農業が結びつくことにより、全国的に観光地として有名なことをいかして、洞爺湖を訪れる観光客にPRをしていくなど、合併によるメリットを活用しながら、あらゆる機会をとらえて、農業特産物の良さをPRしていきま

す。

現在の農業は、農畜産物の輸入自由化や市場開放など国際化が進み、農畜産物価格の低迷など、非常に厳しい環境となっています。

また、地球規模での環境問題や食の安全性に対する関心が高まる中、国民全体が農業に対して、農薬や化学肥料の

使用をできるだけ減らした、より安全で高品質な農産物の供給を求める傾向が強まっていることから、村では、農薬や化学肥料の少ないクリーンな農業技術で、安心で美味しい農産物を消費者に提供するため「クリーン農業」を推進しています。そのためには、農業の基本となる「土づくり」を行わなければなりません。「土づくり」のために村では、えん麦、ひまわり、はぜり草等を植え、それを堆肥として畑に鋤込む緑肥事業に補助を行い、元気な土づくり、安全で元気な作物が収穫できるよう今後クリーン農業を推進し新町になつても活力ある農業の推進を図ります。